

葛巻町畜産開発公社が

グリーンツーリズム大賞

都会などで暮らす人たちが農山漁村を訪れて、その土地の自然や文化に触れ、農林漁業体験などを通じて地元の人たちとの交流を楽しむ。—このようなグリーンツーリズムへの関心や取り組みが全国に広がってきています。

を数多く受け入れ、イベントの開催などによりさまざまな交流事業を展開するとともに、農林家での体験学習など地域と一体となったふれあい交流活動が評価されました。

地域の特色を生かした体験 いつでも、誰でも、何日でも

昨年十二月二十一日、社団法人葛巻町畜産開発公社（理事長・中村哲雄町長）は毎日新聞社主催（農林水産省、国土交通省後援）の「グリーンツーリズム大賞二〇〇六」でみごと大賞を受賞しました。全国から百六十六件の応募があり、その中からビジネスとして成功しているか、地域の活性化に貢献しているかなどを基準に選考されたものです。

同公社は、「いつでも、誰でも、何日でも」をモットーとして研修や体験学習



多岐にわたる専門研修

葛巻町畜産開発公社の「ふれあい交流」の取り組みは、昭和五十五年に設立された町山地酪農研修センターが酪農技術者や牧場管理者の養成を行っていることが原点であり、その専門能力や生産施設・設備が体験学習や研修受け入れの基盤となっています。現在、同センターの研修内容は、家畜の飼育管理や草地管理、乳製品の生産、製品管理、販売ノウハウなど多岐にわたっています。

多彩な体験プログラム

公社では、グリーンツーリズムの実践に力を入れ、県内外の修学旅行生やグループなどでの体験学習の受け入れを積極的に行ってきました。平成十二年度からは食や命の尊さを伝える「酪農教育ファーム」に認定され、幅広いニ



酪農体験学習に訪れた修学旅行生

ふれあい交流の広がり

体験学習を核としたグリーンツーリズム

ズに対応できるようになりました。平成十七年度の牧場体験学習の受け入れは、約一万八千人にのぼります。現在の体験学習プログラムは、四季を通じて①酪農体験（乳牛の乳しぼり、子牛の世話など）②自然体験（草木染め、山菜採りなど）③食育体験（アイスクリーム、ピザ、パン作りなど）④木工体験

（木の実のクラフト、麻ひものクラフトなど）⑤長期・短期キャンプがあります。冬期限定では、小中学生を対象にした長期キャンプ・スノーワンダーランドがあります。また、公社が窓口となり、受け入れた生徒に体験希望に合わせてファームステイも組み入れることができます。公社では、くずまき高原グリーンツーリズム推進協議会（藤森雅美会長）のメンバーとして、くずまき満喫ツアーをはじめ、各種イベントを通じて地域と一体となった活動を実践しています。

これらのさまざまな体験学習は、農業や畜産についての理解を深めるとともに都市住民に癒しや安らぎを与えています。

農村の価値を都市へ発信

公社では、これまで経営の体質強化や地域資源の有効活用による多様な事業を導入してきました。農村の価値を都市へ発信することが重要との考え方から、くずまき高原牧場の店舗や盛岡市のアンテナショップでの乳製品や畜産加工品の販売、くずまき高原牧場まつりや盛岡市の中津川河川敷でのフェア開催など、県内外の消費者などとふれあう機会もつくっています。地域の資源を最大限に活用しながら、「食料・環境・エネルギー」の大切さを都市住民と相互に認識できるように取り組みが行われています。

くずまき高原 牧場内の施設

- 平成7年 くずまき交流館プラトー
- 平成8年 ミルクハウスくずまき
- 平成10年 焼き肉ハウス
- 平成14年 パンハウスくずまき
もく・木ドーム
- 平成16年 シュクランハウス（コテージ5棟）
チーズハウスくずまき
- 平成18年 多目的芝場（もく・木ドーム前）



その他
畜産バイオガスプラント
木質バイオガスプラント

※色字は公社が独自に整備したものの

